

湯西川ダム現地見学会 意見交換会質疑応答議事メモ

Q. (水資源機構)

- ・全体工期が非常に短い中、掘削から打設開始までをわずか1年で施工されているが、冬期休止期間、休日の取り扱い等も含めた施工上の工夫は？
- ・高度技術提案型での受注における実施工時の問題点は？
- ・SP-TOMの運用は、RCDのみか有スランプも含まれるのか？

A. (JV 大内所長)

プラント設置工は昼夜作業の突貫工事で進めた。通常、高所作業を伴う仮設備設置は日中のみの作業だが、日中に高所作業、夜間に部材、パーツ等の組立てに区分し、昼夜施工を可能にした。

掘削工は発破工法を緻密に計画し、効率的な掘削を進め6ヶ月で完了させた。

打設に関する試験施工は、掘削完了後から打設開始9/1までの3ヶ月間を当てた。

(暑中期間の打設開始を避け、打設開始を9/1に設定していた)

冬期休工は12月～2月の3ヶ月間

高度技術提案型のため施工設備計画は受注して初めて公表となる。施工設備の設置申請は受注してからとなるが、現場が国立公園内に位置し、環境省等への申請に時間がかかるため、受注してすぐに着手できない。

SP-TOMは、RCDを優先的に用いている。

有スランプの運搬は可能だが、RCDが圧倒的に多いこと、有スランプ運搬による品質確認のための試験が必要となることから、実施していない。

Q. (東京大学学生)

コンクリートの練り混ぜ試験は1回/2時間と伺った

試験において、規格を満たさなかった場合は、打設を中断し、全量廃棄するのか

A. (JV 松永さん)

これまでの施工で規格外は生じていない

現場状況(気温等)にあわせ、規格範囲内でスランプ値等を調整することはある。

Q. (東京大学学生)

打設前検査における着目点は

A. (JV 川中さん)

清掃検査として、グリーンカットの程度、木片混入を除去など

構造上重要な止水板まわりの状況をより重点的に確認

Q.（東京大学学生）

コンクリート構造物としてのダムの寿命、耐用年数は？

A.（湯西川ダム工事事務所 須田工事課長）

日本で初めてダムが築堤されてから、これまで 50 年程度しか経過していないので、コンクリート構造物の耐用年数としては明言できない。

堆砂の進行がダムの寿命（運用上）と考えられ、一般に 100 年として計画されている。

堆砂を除去するなどして進行を抑制すれば、もっと長寿命化すると思う。

Q.（日本工営）

共同企業体としての所内のコミュニティやマネジメントで問題はあるか？

A.（JV 大内所長）

特に問題は生じないが、経理処理等にかかわる部分は、紳士協定による運用を行っている。それ以外は、ガラス張りの風通しの良い雰囲気でのコミュニケーションの活性化を図っている。

Q.（八千代 E）

取水設備（連続サイフォン）の組み立ては具体的にどの様に進めているのか？また、据え付け時の工夫は？

A.（湯西川ダム工事事務所 須田工事課長）

工場出荷部品を上流ヤードで仮組みし、500t クレーンで設置箇所に運搬して設置組み立てを行う。設置工事は IHI が行い、運搬組み立て後、JV に引き渡す。詳細は別途工事なので不明である。